

加古郡播磨町におけるヒラズゲンセイの観察

久保 弘幸

ヒラズゲンセイ (*Cissites cephalotes*) は南方系の昆虫であり, 近年, 観察事例は増加しつつあるとは言うものの, 頻繁に遭遇できる種ではない. 兵庫県で観察された事例については, 山本勝也が記録を総括しているが (山本, 2010), それによれば, 1977年の洲本市における初確認以降, 37例が挙げられている. そのうち34例が1990年以降の記録である.

筆者は2012年6月26日に, 加古郡播磨町の国指定史跡大中遺跡公園内においてヒラズゲンセイ1♂を観察する機会を得たので, ここで紹介したい.

大中遺跡公園内には, 多種多様な樹木が植栽されており, 春期にはキムネクマバチの♂の飛翔が多数見られる. キムネクマバチの巣穴も, 公園内の枯死木などに散見されるため, 筆者はかねてよりヒラズゲンセイの生息に注目していた.

当日の天候は晴れ時々曇り, 播磨町に直近の明石市における最高気温は27℃であった. 筆者は, 特に観察の目的を持たずに公園内を散策していたが, その際, 公園北側の生垣沿いで, ヒラズゲンセイ1♂を発見した.

ヒラズゲンセイは, 生垣に立てかけられた, 直径約5cm, 長さ約1.2mの枯枝上を歩いていた. この枯枝にはキムネクマバチの巣穴が7か所見られ, うち3か所は本年に設けられたと思われる, 真新しい穿孔であった.

ヒラズゲンセイは枝上をゆっくりと徘徊しながら, キムネクマバチの巣穴の一つに接近した. この巣穴内にはハチがおり, ゲンセイの頭部が巣穴上に達すると, ただちに巣穴を塞ぐように腹部上面を巣穴内側に押し当てるといった行動を繰り返した.

ヒラズゲンセイは, この主のいる巣穴に侵入しようとすることもあったが, そのたびにハチは巣穴を閉塞する行動を取り, 時には, 大顎を用いてゲンセイを攻撃した. ヒラズゲンセイは, こうした攻撃に対してまったく反撃は行わず, 巣穴から退避した.

結局, ヒラズゲンセイはこの主のいる巣穴には侵入できなかったが, 同じ枯枝上にある主がいない別の巣穴には侵入し, 巣の内部を歩き回ってはまた枝上に現れるという行動を数回おこなった.

個人的な時間の制約のため, 筆者のおこなった観察はここまでである. このヒラズゲンセイ1♂は採集し, 標本として筆者が保管している. また, この観察をおこなった枯枝は, 現在も公園内に置かれているので, 来年にも引き続き観察を行う予定である.

○参考文献

山本勝也, 2010. 兵庫県のヒラズゲンセイ雑考. きべりはむし, 32(2): 23-25.

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市)



図1 キムネクマバチとにらみ合う.



図2 巣口を腹部で塞ぐキムネクマバチ.



図3 主のいない巣をうかがう.



図4 主のいない巣に侵入する.